

プロフェッショナル・インストラクター

「救命率向上に貢献できる

インストラクターを目指して」

この本のねらいは以下の通りである。

- 1.プロフェッショナリズムを理解し、実践していただくこと。
- 2.プレゼンテーションスキルを身につけ、伝達能力の向上を図ること。
- 3.実技デモンストレーション能力の向上。
- 4.効果的な実技指導や訂正スキルを身につけていただくこと。
- 5.応急手当の効果的普及方法について考えていただくこと。

<INDEX>

まえがき

I.プロローグ

- ・講習依頼
- ・プレゼンテーションの始まり

II.プロフェッショナルのすすめ

- 1.プロフェッショナルとは
 - ①プロってなんだろう？
 - ②プロフェッショナリズムとは
- 2.プロフェッショナリズムの要素とは
 - ①技能や専門知識を学ぶ努力をする
 - ②最新情報を常にアップデートする
 - ③ルールを逸脱しない行動をとる
 - ④公平な態度、失礼のないマナーで
 - ⑤適切な服装や外見
 - ⑥適切な報酬を得る
- 3.サービス業としてのインストラクター
 - ①指導はサービス

②サービス業の仕組み

③インストラクターはサービスマン

III.プレゼンテーション・スキル

- 1.プレゼンテーション・スキルはなぜ必要か
 - ①プレゼンテーションは人間関係の基本
 - ②プレゼンテーションは「プレゼント」＝「贈り物」
 - ③プレゼンテーション・スキルで得られる「プレゼンス」＝「存在感」
- 2.学科プレゼンテーションの組み立て
 - ・プレゼンテーションの3つのハコ
 - ①第一のハコ「イントロダクション」（導入）
 - ②第二のハコ「ボディー」（内容）
 - ③第三のハコ「コンクルージョン」（まとめ）
- 3.学科プレゼンテーションの準備
 - ①目的の確立
 - ②計画を立てる
 - ③視覚補助ツール
 - ④プレゼンテーション計画表を作る
- 4.実技プレゼンテーションの組み立て
 - ・実技プレゼンテーションの3つのハコ
 - ①第一のハコ「ブリーフィング」
 - ②第二のハコ「ボディー」
 - ③第三のハコ「ディブリーフィング」
- 5.実技プレゼンテーションの準備
 - ①講習の目的を確認する
 - ②講習計画を作る
 - ③教材、資器材を準備する
 - ④会場を確認する
 - ⑤講習計画表を作る

6.リハーサル

7.プレゼンテーションの態度とマナー

- ①姿勢、立ち方
- ②距離
- ③表情
- ④目線
- ⑤声
- ⑥ジェスチャー
- ⑦動き
- ⑧服装

8.プレゼンテーションの評価と練習方法

- ①数多く練習し実施すれば上達する
- ②プレゼンテーションチェック表
 - ・学科プレゼンテーションチェック表
 - ・実技プレゼンテーションチェック表
- ③評価と練習方法

IV.実技のコーチング

1.肯定的コーチングのすすめ

- ①ほめられると上手くなる
- ②欠点探しは誰でも出来る
- ③肯定的コメントの提供が指導者の仕事

2.「ほめる」方法

- ①具体的にほめる
- ②即座にほめる

3.スキルの訂正方法

- ①実技のミスを予防する説明やデモンストレーション
- ②ほめて、訂正、またほめる
- ③改善方法を探す
- ④ほめるだけで訂正
- ⑤訂正の必要なとき

4.グラフやデータは諸刃の剣

5.直接監督と間接監督

①初めは直接監督で、一人一人丁寧な指導

②出来るようになったら監督しすぎない

6.受講生をコーチングに活用する

7.メディアの活用

- ①情報の消化不良を起こさせない
- ②小分けした情報提供と実技練習

8.人間は忘れる生き物

- ①長く覚えているためには繰り返すこと
- ②忘れたことを思い出すために
- ③定期的な復習を促す

9.質問への回答

- ①質問への対応は受講生との信頼関係に重要
- ②質問への応え方
- ③質問に感謝

V.実施率向上のために

1.救助者の免責を考える

- ①なぜ実施しないのか、なぜ実施できないのか
- ②心肺停止は生か死か
- ③ Clinical Death と Biological Death
- ④死の定義は重要
- ⑤用語の使い方に注意が必要
- ⑥免責のために出来ること
- ⑦免責に貢献する119番口頭指導

2.未体験の世界へ出て行く勇氣

3.練習用人形とどう付き合うか

4.技術と手順、どちらが優先？

5.見えない危険、感染防止

- ①救助者自身の安全確保
- ②実施率向上に重要なマウスシールド

6.乳幼児小児の応急手当普及の必要性

あとがき